

オーガニック SHIBATA プロジェクト (地方創生推進タイプ)
《実施内容》
【オーガニック米産地形成】 ・オーガニックビレッジ宣言による有機米産地形成のさらなる推進や、研修会による新規栽培者の獲得を図った。また、地域おこし協力隊によるオーガニック米の栽培や電気柵設置等の鳥獣害対策に取り組んだ。長岡技術科学大学と開発を進める除草ロボットでは、ほ場での走行試験を実施した。その他、販路拡大に向け、海外における新発田産オーガニック米のPRを実施した。また、担い手募集や有機米の普及啓発を図るため、動画を活用したPRを実施した。市生産堆肥の活用に向け、畜産農家と調整を行い、協力を得られた。 【農産物等輸出促進及び国内販路拡大】 ・新発田産米は、海外販路拡大に向け、実績のあるニューヨークに加え、新たにロサンゼルスにおいてトップセールスを実施した。その他、ハワイ・香港の米オーナー制度をインバウンド誘客と連動して実施した。 ・越後姫は、キャンペーンやSNSを活用したPRのほか、地元高校生とコラボしたメニュー開発を通じて、認知度向上と消費拡大を図った。 ・新発田牛は、市内外のイベントへの出店や様々な雑誌等への掲載により認知度の向上、消費拡大を図るとともに、新市場開拓として大阪にてアンテナショップや飲食店と連携したフェアを実施した。 【加工品、特産品製造と販路拡大】 ・新たに開館した「銀座・新潟情報館 THE NIIGATA」や市内商業施設等で「しばた大物産展」を開催し、事業者のマッチングや加工品のPRを実施したほか、リニューアルした「新潟駅 CoCoLo」において「しばた越後姫フェア」を開催し、越後姫加工品のPR及びバイヤーとの商談を実施した。 ・オーガニック米を使用したクラフトビールや餅の開発をはじめ、越後姫などの特産品を活用した新商品開発を支援するとともに、「しばた大物産展」や「しばた越後姫フェア」などのイベントや市外の商談会・展示会などへの出展助成を通じて商品を市場へ流通させる支援を行った。
《課題・分析》
【オーガニック米産地形成】 ・除草の問題により、全体的にオーガニック米の収量が伸び悩み、ほとんど収穫できない生産者もいた。除草作業の指導や除草ロボットの実用化が急務であるが、除草ロボットの走行試験では、ほ場内を走行できなかったため、早急に改良を進めるよう大学へ働きかける。 【農産物等輸出促進及び国内販路拡大】 ・越後姫、新発田牛ともに各協議会で進めるPRが効果的であったとともに、令和7年度春に実施予定の「ももいろクローバーZ」イベントにおいてロゴマークやオリジナルグッズに活用されたことで全国的にも大きな注目を浴びることとなった。 ・令和6年産米は国内の価格高騰を踏まえ、輸出事業者と調整した結果、当初計画より輸出量は微減となったことから、今後は国内の価格高騰の影響も注視した上で、輸出用米の集約に努める必要がある。新発田牛は停滞している共同輸送する他産地和牛との調整を図りながら輸出の新たな販路を模索する必要がある。越後姫は輸出も視野に入れた長距離輸送の仕組みや検討を進めることが課題である。 【加工品、特産品製造と販路拡大】 ・「しばた大物産展」は、今回で4回目の開催となり、当初の目的であった新型コロナウイルス禍での市内消費喚起のほか、製造事業者、小売店のマッチングも進み、日常的に商談が行われるようになったことから一定の役割を終えたと考える。 ・オーガニック米栽培の普及によって、加工品開発の取組が進み始めたことから、引き続き、オーガニック米を中心として、オーガニック素材を活用した商品開発のほか、越後姫、新発田牛などの特産品も含めたSHIBATAブランディングを進める必要がある。
《前年度外部評価の反映》
【前年度外部評価】 地域おこし協力隊では、任期満了後の定住が課題となっているが、農業経験のない隊員を研修して就農に結びつけ、定住を図っている本プロジェクトを高く評価している。 【令和6年度事業への反映】 地域おこし協力隊を中山間地域の農業法人へ研修という形で配置することで、担い手を育成しながら任期満了後の就農や定住につながるようなフォローアップを行っている。
《今後の取組》
【オーガニック米産地形成】 ・引き続き、実証ほにより栽培技術の確立を目指すとともに、研修会の開催等により新規栽培者の確保に努める。また、開発を進める除草ロボットが完成するまでの間、市販の除草用機械等の実演会を開催し、より効果的な除草機械の研究を行うとともに、併せて機械導入支援を行う。その他、市堆肥センターの堆肥の活用に向け、畜産農家との調整を進める。また、有機栽培の専門家を入れ、栽培方法の確立を図る。 【農産物等輸出促進及び国内販路拡大】 ・輸出事業に関しては、引き続き輸出事業者と連携してニーズに基づいたターゲット国へのアプローチを進めていくとともに、米のオーナー制度などインバウンド誘客と連携した取組を継続していく。 ・越後姫、新発田牛においては、全国的に注目を集める「ももいろクローバーZ」のライブイベントを皮切りに更なる認知度向上につながるよう消費拡大、新市場開拓につながるPR、プロモーションを展開していく。 【加工品、特産品製造と販路拡大】 ・オーガニック素材を活用した特産品の開発や現代の消費者に訴求するためにリブランディングに係る経費の支援を継続するとともに、販路拡大に意欲的な事業者に対して商談会・展示会に出展するための支援を実施する。

大倉喜八郎別邸「蔵春閣」復元・公開を契機とした～新発田の歴史・文化・食～発信プロジェクト (地方創生推進タイプ)	
《実施内容》	
○大倉喜八郎&食文化の発信事業	
・「城下町しばた全国雑煮合戦」や「しばたいちじくフェア蔵春閣 JAZZ ライブ」などの「食」を活用したイベントを東公園及び蔵春閣において開催したほか、イクネスしばたでの大倉喜八郎に関連する企業と連携した料理教室開催など、広く新発田の食文化を発信した。	
・蔵春閣館内において、季節の農産物を活用した和菓子・洋菓子を提供する「カフェプラン」を実施した。	
・大倉喜八郎の顕彰や中心市街地の賑わい創出、市街地回遊を目的に、親子向けイベント「闇びらき」を民間主導の各種イベントと同時開催したほか、駅前エリアの飲食店、物産店、観光施設と連携し、市街地回遊型謎解きゲーム「大倉喜八郎と隠し財産の謎」を開催した。	
・蔵春閣や周辺施設を会場とした「市民茶会」、「呈茶席」を開催し、伝統文化の発信や市内回遊を図った。	
○動態保存による「蔵春閣」の積極的利活用事業	
・開館 1 周年記念イベントや企画展、文化団体の活動発表の場として蔵春閣を活用したほか、発信力のある民間団体等と連携した事業の実施による蔵春閣への入込及び市街地回遊の促進に加え、施設の利用事例や利用方法を周知し、貸館利用の促進を図った。	
・今後の施設の保存と、将来における国・県の文化財指定を見据えて、施設の移築・復元に係る記録をまとめた報告書を作成した。	
○「蔵春閣」を核とした中心市街地活性化事業	
・蔵春閣及び駅前エリアをはじめとする当市の観光施設への誘客促進や食文化を国内外へ発信するプロモーション映像を作成した。	
・令和 5 年度に設置した標柱と小冊子「しばた町あるき」を連動させ、まちなか回遊の促進を図った。	
・商店街、学生、まちづくり団体等が実施する自主的な活動を促し、蔵春閣を含む中心市街地でのイベント開催を支援したほか、周辺施設と連携した賑わい創出や、海外から定期的な団体ツアーを誘致し、蔵春閣の利用促進及び回遊促進につなげた。	
○大倉喜八郎スピリット～進一層への伝承事業	
・多くの企業を創業した大実業家である大倉喜八郎の精神にあやかり、蔵春閣において新規起業を目指す方を対象とした勉強会を開催し、創業マインドの醸成を図ったほか、大倉喜八郎を顕彰する展示会や講演会を開催し、市民への周知啓発を図った。	
《課題・分析》	
・企画展や各種イベントの実施により、入館者数及び貸館件数は目標を上回り、新発田駅前エリアの経済波及効果の創出につながった。一方で、商店街等への事業効果は限定的であることから、今後も面的な賑わいの創出に向け、観光 P R 動画の活用や、民間団体等との更なる連携により、引き続き中心市街地の賑わい創出を図る必要がある。	
・休日、祝日のスポット開催のイベントのほか、平日も含めた賑わい創出や経済波及効果を生み出す取組が求められている。	
・文化団体の発表や市民茶会の開催について、会場を蔵春閣とすることで高い満足度を得られているものの、見学利用との兼ね合いなど、動態保存と観光活用の両立が課題となっている。	
《前年度外部評価の反映》	
【前年度外部評価】	
子どもたちも気軽に蔵春閣を利用できる企画をしてもらいたい。	
【令和 6 年度事業への反映】	
・駅前エリアの店舗等と連携した「大倉喜八郎と隠し財産の謎」では、若年層や親子連れも楽しめる企画として集客を行うとともに、駅前エリアから中心市街地全体への人の流れを創出し、子どもたちが気軽に駅前エリア及び蔵春閣へ立ち寄れる仕組みづくりを行った。	
・まちづくり団体と連携して開催した「闇びらき」では、子どもたちをターゲットとした蔵春閣館内でのまちづくりゲーム体験や東公園内でのキッズパーク開催等を通じて、子どもたちが関心を持って蔵春閣及び駅前エリアを訪れることができる事業を企画した。	
・小学校や中学校からの見学を随時受け入れることで、子どもたちが蔵春閣と大倉喜八郎の功績等に触れることができる機会を提供するとともに、呈茶席では子どもも気軽に茶席を楽しめる企画とした。	
《今後の取組》	
○大倉喜八郎&食文化の発信事業	
・四季ごとの食を活用したイベントや料理教室	
・民間団体等と連携した食文化イベントの開催	
○動態保存による「蔵春閣」の積極的利活用事業	
・蔵春閣を活用したアートイベントや企画展の開催	
・周辺の民間施設と連携した誘客及び回遊促進事業の実施	
・蔵春閣を活用した賑わい創出事業を実施する民間団体等への活動支援	
○「蔵春閣」を核とした中心市街地活性化事業	
・市街地への観光ツアーの造成	
・蔵春閣を中心とした市街地と月岡温泉を結ぶ周遊バスの新たな運行プラン等の構築	
・周辺施設、民間団体等と連携したマルシェ等の開催	
○大倉喜八郎スピリット～進一層への伝承事業	
・当市出身の偉人を紹介するホームページ作成	
・創業塾等によるスタートアップの支援	
・大倉喜八郎を顕彰する展示会、講演会の開催	

人材・学・企業の結集「課題先進地からのデジタルイノベーション戦略」 (地方創生推進タイプ)
《実施内容》 ・DX 補助金制度を実施し、6 社へ交付した。(交付総額(6 社合計)2,046,000 円) ・DX 補助金によって行われた DX の一例： 顧客管理システム導入(製造業)、LINE 上の自動受注システム(農業)、自動見守りシステム(介護) ・市内事業者が無料で利用できる「DX あれこれ相談会」を継続実施し、相談者に対して専門家を派遣した。 経営課題の洗い出しや課題に適したデジタルツールの紹介など、DX のお悩みに対応した。 (専門家は、キネス天王入居企業から相談内容に精通した方を選出) ・令和6年2～9月の間、国の臨時交付金を活用した「業務効率化補助金」(DX 補助金とは別の補助金として設立。内容はDX 補助金と同様、令和5,6年度の限定な補助金)を実施し、10 社へ交付した。(交付総額(10 社合計)2,951,000 円) ・「業務効率化補助金」によって行われた DX の一例： 住宅用構造計算ソフト導入(建設業)、クラウド型配車システム(タクシー業)、電子請求書発行システム(製造業)
《課題・分析》 ■分析 ・市内企業の DX 進捗は、以下に大別できている。 ①DX を進めている企業 公的支援を待たずに必要に駆られた段階で、自力で DX を進めている。(自力で進められる人材、資金力がある) ②DX を進められていない企業 進められていない理由としては、人材・資金の不足や「何から始めて良いかわからない」といった状況が見られる。 ③過去、DX に着手したことがあるが、社内定着に至らなかった企業 過去の経験が原因で、DX に否定的になっていたり、再チャレンジ出来ないでいる。 ■課題 ②③の企業に DX に取り組んでもらうため、 ・引き続き、DX 相談会を利用してもらい、経営課題の洗い出し、適したデジタルツールの選定などを通して、効果のある DX の形を見つけてもらう。 ・今後も補助金制度を継続し、DX のコストハードルを下げることで、DX に取り組む企業を増やす。
《前年度外部評価の反映》 【前年度外部評価】 引き続き計画的に事業を進めていただきたい。
《今後の取組》 ・引き続き、補助金制度や相談会を実施し、DX に踏み出しやすい環境をつくり、DX に取り組む事業者を増やすことで、市内の労働環境改善に貢献していく。 ・キネス天王入居企業が請け負う DX 事例も増えてきており、市内企業とキネス天王入居企業との連携をより深めていく。

道の駅加治川リニューアル整備計画 (地方創生拠点整備タイプ)
《実施内容》 ・道の駅裏の広場を憩いの場やバーベキューができる多目的スペースとして整備することで、家族連れやインバウンド客などの新規客層の獲得に取り組んだ。 ・農家との連絡を密にし、農家同士のつながりから契約農家数の増加を図った。 ・市が実施するいちじくフェアやいちごフェアに積極的に参加するとともに、リニューアルオープン後の周年祭を「大峰山山桜まつり」と同時開催することや地元商工会と連携して「食のふれあいフェスタ」を開催することで誘客促進を図った
《課題・分析》 ・入込客数は令和5年度と比較して減少しているが、指定管理者がレストラン・パン工房・直売所を一体的に運営することで収支が改善した。指定管理者は、各種イベントを企画し集客に努めており、今後は新たに整備したバーベキュー施設の活用等により、一層の集客を図り、更なる収益向上を目指していく必要がある。 ・農家からの紹介により新たに契約した農家もいたが、高齢化による離農で契約農家数が減少した。
《前年度外部評価の反映》 【前年度外部評価】 引き続き計画的に事業を進めていただきたい。
《今後の取組》 ・入込客数及び販売売上額の増加に向け、指定管理者が経営上の課題等について分析を行いながら、道の駅加治川の魅力向上につながる取組を進めていく必要がある。 ・契約農家数を増加させるため、農家からの紹介などでコミュニティを広げていく。また、直売所で取り扱っていない農産物を確保するため、農家に直接交渉を行っていく。

天王小学校空き校舎リノベーション事業 (地方創生拠点整備タイプ)
《実施内容》 ・引き続きリスティング広告を活用した誘致活動を行い、令和6年度末時点の入居企業は13社となった。 (空室は残り1部屋) ・8月には、長岡技術科学大学主催で「夏休み子ども実験教室」を開催。2日間に渡り小中学生等約60名が参加。 土中の微生物などを顕微鏡で観察したり、教授から「微生物の働き」の講義を受けるなどした。 ・大学、入居企業、市の連携強化を目的に「キネス天王連携会議」を令和7年2月に開催。
《課題・分析》 【分析】 ・子ども向けイベントや「スタディーツーリズム」の受入れなど、平時の企業活動以外の多様な事業が生まれており、キネス天王の活用の幅が広がりつつある。 (スタディーツーリズム：日本旅行が販売する小中高校生などを対象にした学習旅行) ・外部の企業から「専用の事務スペースは必要ないが、入居企業・大学・市の連携には参画したい」との要望があり、キネス天王との連携が望まれている。 ・入居企業は増加しているが、地元人材の採用が多くUJIターン移住者の増加には結びついていない。 【課題】 ・入居企業間の交流、連携、協業、事業創造の促進 ・入居企業の市内での事業展開の後押し ・「入居しない連携方法」を検討する。 ・キネス天王における活動内容周知のための地元自治会との連携
《前年度外部評価の反映》 【前年度外部評価】 引き続き計画的に事業を進めていただきたい。
《今後の取組》 ・空室解消に向けて、引き続き誘致活動を継続する。 ・「キネス天王連携会議」を継続開催し、入居企業同士の交流を促進し、新たな事業創造に繋げていく。 ・企業誘致と新たな事業創出により、若者のUJIターンや地元定着を図っていく。 ・入居企業と地元天王区との連携事業を検討していく。 ・令和7年度からは共有スペースを使用でき、連携に参画できる「コワーキング会員制度」を導入し、キネス天王の輪を広げていく。 ・DX補助金案件とキネス天王企業を繋ぐことで、市内での受注獲得と市内進出を後押しする。

大倉喜八郎別邸「蔵春閣」移築及び利活用による新発田駅前エリア活性化プロジェクト (地方創生拠点整備タイプ)
《実施内容》 【大倉喜八郎&食文化の発信事業】 ・「城下町しばた全国雑煮合戦」や「しばたいちじくフェア蔵春閣 JAZZ ライブ」などの「食」を活用したイベントを東公園及び蔵春閣において開催したほか、イクネスでの大倉喜八郎に関連する企業と連携した料理教室開催など、広く新発田の食文化を発信した。 ・蔵春閣館内において、季節の農産物を活用した和菓子・洋菓子を提供する「カフェブラン」を実施した。 ・大倉喜八郎の顕彰や中心市街地の賑わい創出、市街地回遊を目的に、親子向けイベント「闇びらき」を民間主導の各種イベントと同時開催したほか、駅前エリアの飲食店、物産店、観光施設と連携し、市街地回遊型謎解きゲーム「大倉喜八郎と隠し財産の謎」を開催した。 ・蔵春閣や周辺施設を会場とした「市民茶会」、「呈茶席」を開催し、伝統文化の発信や市内回遊を図った。 【動態保存による「蔵春閣」の積極的利活用事業】 ・開館 1 周年記念イベントや企画展、文化団体の活動発表の場として蔵春閣を活用したほか、発信力のある民間団体等と連携した事業の実施による蔵春閣への入込及び市街地回遊の促進に加え、施設の利用事例や利用方法を周知し、貸館利用の促進を図った。 ・今後の施設の保存と、将来における国・県の文化財指定を見据えて、施設の移築・復元に係る記録をまとめた報告書を作成した。 【「蔵春閣」を核とした中心市街地活性化事業】 ・蔵春閣及び駅前エリアをはじめとする当市の観光施設への誘客促進や食文化を国内外へ発信するプロモーション映像を作成した。 ・令和 5 年度に設置した標柱と小冊子「しばた町あるき」を連動させ、まちなか回遊の促進を図った。 ・商店街、学生、まちづくり団体等が実施する自主的な活動を促し、蔵春閣を含む中心市街地でのイベント開催を支援したほか、周辺施設と連携した賑わい創出や、海外から定期的な団体ツアーを誘致し、蔵春閣の利用促進及び回遊促進につなげた。 【大倉喜八郎スピリット～進一層への伝承事業】 ・多くの企業を創業した大実業家である大倉喜八郎の精神にあやかり、蔵春閣において新規起業を目指す方を対象とした勉強会を開催し、創業マインドの醸成を図ったほか、大倉喜八郎を顕彰する展示会や講演会を開催し、市民への周知啓発を図った。
《課題・分析》 ・企画展や各種イベントの実施により、入館者数及び貸館件数は目標を上回り、新発田駅前エリアの経済波及効果の創出につながった。一方で、商店街等への事業効果は限定的であることから、今後も面的な賑わいの創出に向け、観光 P R 動画の活用や、民間団体等との更なる連携により、引き続き中心市街地の賑わい創出を図る必要がある。 ・休日、祝日のスポット開催のイベントのほか、平日も含めた賑わい創出や経済波及効果を生み出す取組が求められている。 ・文化団体の発表や市民茶会の開催について、会場を蔵春閣とすることで高い満足度を得られているものの、見学利用との兼ね合いなど、動態保存と観光活用の両立が課題となっている。
《前年度外部評価の反映》 【前年度外部評価】 引き続き計画的に事業を進めていただきたい。
《今後の取組》 【大倉喜八郎&食文化の発信事業】 ・四季ごとの食を活用したイベントや料理教室 ・民間団体等と連携した食文化イベントの開催 【動態保存による「蔵春閣」の積極的利活用事業】 ・蔵春閣を活用したアートイベントや企画展の開催 ・周辺の民間施設と連携した誘客及び回遊促進事業の実施 ・蔵春閣を活用した賑わい創出事業を実施する民間団体等への活動支援 【「蔵春閣」を核とした中心市街地活性化事業】 ・市街地への観光ツアーの造成 ・蔵春閣を中心とした市街地と月岡温泉を結ぶ周遊バスの新たな運行プラン等の構築 ・周辺施設、民間団体等と連携したマルシェ等の開催 【大倉喜八郎スピリット～進一層への伝承事業】 ・当市出身の偉人を紹介するホームページ作成 ・創業塾等によるスタートアップの支援 ・大倉喜八郎を顕彰する展示会、講演会の開催

※本事業における施設整備後（令和 5 年度以降）の取組については、「大倉喜八郎別邸「蔵春閣」復元・公開を契機とした～新発田の歴史・文化・食～発信プロジェクト」で実施していることから、同プロジェクトの取組を再掲

大倉喜八郎スピリッツ「進一層」で挑む、新発田駅前エリア活性化プロジェクト (企業版ふるさと納税)
《実施内容》
○駅前エリアから市街地周辺への賑わいの創出 ・集客イベント「闊びらき」の開催（令和6年6月15日～16日／会場：蔵春閣、東公園）来場者数4,500人（うち、蔵春閣入館者数457人） 子育て世代をメインターゲットとして、蔵春閣館内でのまちづくりゲーム体験やプログラミング体験の実施に加え、まちづくり団体と連携し、東公園内でのキッズパーク（野外パフォーマンス、遊具設置）を開設し、より広い世代への施設周知と誘客に取り組んだ。事業実施にあたっては、複数の人気イベントとの同時開催により、面的な賑わいの創出を図った。 ・中心市街地の回遊を図るイベント「サマーフェスティバル」の開催支援（令和6年7月27日）来場者数15,000人 ・東公園を会場とした食のイベント「城下町しばた全国雑煮合戦」の開催（令和7年1月12日）来場者数20,000人
○情報発信・PR事業 ブログ記事やWEB広告を通じて情報発信エリアを拡大し、蔵春閣への誘客促進を図った。（令和6年6月、9月、令和7年2月） ・圏域内：多くのフォロワーを有する地域情報ウェブサイトにおいて、インフルエンサーによるブログ形式で情報を発信（記事閲覧件数：43,243件） ・圏域外（福島県、山形県、上中越、近隣市町村の15歳～65歳以上）：「LINE」広告（22,430クリック）を活用した情報発信
○大倉喜八郎の顕彰（スピリット継承） まちづくり団体と連携し、御免町小学校ウォークラリーの学習コースに新発田駅前エリアを組み込み、児童や保護者など約100名に大倉喜八郎や蔵春閣にまつわるクイズイベントを実施（令和6年11月7日）
《課題・分析》
○駅前エリアから市街地周辺への賑わいの創出 ・「闊びらき」では近隣施設でのイベントと同時開催とすることで市街地回遊や入込促進の相乗効果を図ることができた。（令和6年度：2,000人→令和7年度：4,500人）また、「城下町しばた全国雑煮合戦」を駅前での開催とすることで蔵春閣の入込が落ち込む冬期間の入込促進にもつなげることができた。今後も民間団体等と連携しながら蔵春閣及び駅前エリアへの誘客を行うとともに、賑わいのエリアを市街地全体に波及させる必要がある。 ・イベントごとに多くの来場者が中心市街地に訪れるが、物産店、飲食店以外の店舗への回遊が少ないため、菓子店等の小売店などにも回遊を促す必要がある。
○情報発信・PR事業 蔵春閣の入込客数は開館初年度（令和5年度）から減少したものの（令和5年度：65,737人→令和6年度：31,134人）、当初設定した目標値（16,500人）を上回ることができた。今後も新たな来館者・リピーター獲得に向けて各種媒体を有効に活用しながら情報発信を行う必要がある。
○大倉喜八郎の顕彰（スピリット継承） 小学生を対象としたクイズイベントでは楽しみながら喜八郎翁を顕彰する機会を創出し、教員からも「貴重な機会であった」と好評であった。一方で、若年層における大倉喜八郎の認知度はまだ高くない状況にあることから、今後も子どもたちを対象として、当市が生んだ偉人への理解を通じた、ふるさと新発田への愛着醸成や地域理解を深める取組を展開していく。
《前年度外部評価の反映》
【前年度外部評価】 子どもたちも気軽に蔵春閣を利用できる企画をしてもらいたい。
【令和6年度事業への反映】 ・まちづくり団体と連携して開催した「闊びらき」では、子どもたちをターゲットとした蔵春閣館内でのまちづくりゲーム体験や東公園内でのキッズパーク開催等を通じて、子どもたちが関心を持って蔵春閣及び駅前エリアを訪れることができる事業を企画した。
《今後の取組》
・民間団体等と連携しながら企画展を開催するほか、民間主導で蔵春閣を活用して実施するイベント開催を補助することで、蔵春閣への入込促進を図るほか、蔵春閣の様々な活用方法を広く示すことで、「動態保存」の考えに基づき、今後のさらなる利活用につなげていく。また、既存の事業についても駅前エリアとの送客や面的な賑わいの創出につながるよう官民連携で取組を進める。 ・大倉喜八郎翁の顕彰（スピリットの継承）については、教育委員会や学校、まちづくり団体等と連携しながら、授業や市内巡検等の様々な場面を活用して蔵春閣や大倉喜八郎について学ぶ機会を提供する。

「公共交通」×「起業・創業支援」×「まちの顔づくり事業」で繋ぐ新発田市地域活性化プロジェクト	
(企業版ふるさと納税)	
《実施内容》	
○起業・創業支援の充実 ・新規創業者は増加傾向にあり、新規創業支援事業で２３件（うち、中心市街地１３件）の助成を行った。特に、まちづくり団体が活発に活動し、空き物件の所有者が新規創業者の誘致に前向きになっている上町・下町商店街での開業が多くなっている。 （参考：過年度の新規創業支援件数　令和５年度、２４件、令和４年度１３件、令和３年度１２件）	
○中心商店街周辺のにぎわい・活性化 ・まちづくり団体が実施するリノベーションモデル事業を支援し、空き物件の軽修繕を実施したことで、早期に入居者が決定し、令和６年１１月より衣料品店として営業を開始している。	
《課題・分析》	
○起業・創業支援の充実 ・新規創業者は増加傾向にあるなか、特に中心市街地内での創業が進み、利活用可能な空き物件が限られていることから、さらなる空き物件の発掘のため、所有者へのさらなる働きかけや、利活用を見据えた軽修繕等を実施するなど、物件の確保、再生が必要となる。	
○中心商店街周辺のにぎわい・活性化 ・まちづくり団体が積極的な事業展開（空き店舗調査、空き店舗の軽修繕による新規創業者とのマッチング等）を進めているため、事業計画等を把握し、市として必要な伴走支援を行う必要がある。 ・利活用できる空き店舗が限られていることから所有者へ訴求する取組が必要である。	
《前年度外部評価の反映》	
【前年度外部評価】 引き続き計画的に事業を進めていただきたい。	
《今後の取組》	
○公共交通の充実 ・市街地循環バスの新たに運行を開始する系統について、運行開始後に挙がる課題・要望に対応し、利便性を向上させることで、利用者を増やしていく。従来から運行している系統についても、運行ダイヤやルートの見直しなどの検討を継続していく。	
○起業・創業支援の充実 ・引き続き、新規創業者を支援するため、スタートアップに係る経費補助のほか、エリアマネジメント団体等と連携した空き店舗とのマッチングやリノベーション事業に取り組む。	
○中心商店街周辺のにぎわい・活性化 ・遊休地や空き店舗の利活用を促進するための助成制度を活用し、エリアマネジメント団体等と連携してにぎわい創出と出店を図り、エリアの価値向上を目指していくとともに、助成制度の活用ニーズが高まっていることから対象エリアの拡大を行う。 ・中心市街地の利便性及び魅力向上に向け、ハード、ソフトの取組を展開する。	